

# 花鎮め

—ささやかなる天変地異のために

戸口

古き郵便箱の中に  
一片の花弁

Rのもんじ文字

街頭灯り初めし  
自刻の

石化したる肉球  
のやうでもあり  
連射されし弾丸の  
痕跡にあらぬとも  
言い切る由もなく

いよよ  
落魄の予感に満ちて  
春

在りし日の  
恋  
の如く

いまだ知らぬ愛人と  
再び見ゆる日の  
騒めきの中

眠られぬ夜の  
をみなひとり  
ひた走り  
去りゆけるあり

\*

朝

花鎮め